

1年1組 国語科学習指導案

場 所 1年1組教室
授業者 國枝 雅恵

1 単元・教材名 「くちばし」

2 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、児童が初めて出会う説明的文章である。1年生の児童は、クイズをきいたりこたえたりすることは、とても好きである。また、動物にも興味を持っているため、教材に親しみやすいと思われる。しかし、鳥のくちばしだけに注目して考えたことがある児童は、ほとんどいないだろう。くちばしに焦点を当ててみると、その形状は、その鳥の主な食べ物に大きく関係していることがわかる。「くちばし」では、最初のページで、鳥のくちばしの形状や特徴を絵と文で示し、「これは、なんのくちばしでしょう。」と問いかける。ページをめくると、そこには鳥全体の姿がわかる写真とともに、「これは、〇〇のくちばしです。」と答えを提示し、鳥がくちばしを活用してえさを取る様子が説明されている。きつつき・おうむ・はちどりと、3回同じ文型を繰り返し読み返すことで、児童は、特徴→問題→答え→説明と、順序正しく読み取ることができると考える。

単元を貫く課題を、「くちばしクイズブックを作ろう」と設定し、教材文を学習するワークシートから、「くちばし」で学んだ基本的文型を活用して、スズメ・カワセミ・ヘラサギ・ワシなどの鳥のくちばしについて、クイズを制作する。どんな食べ物をどのように食べているかを説明としてまとめ、それに関わるくちばしの特徴を見つけ、問題文、答えの文と制作し、並べ替えて、「くちばし」と同じ文型でオリジナルのくちばしクイズを制作することで、説明の内容や順序を正しく読み取ったり、自己の経験や知識を活用して、写真によって示されている捕食方法を、説明したりする力が育つと考える。

相手意識・・・・・・・・学級の仲間に

目的意識・・・・・・・・くちばしの特徴を分かりやすく伝えるために

方法意識・・・・・・・・くちばしの特徴と、そのくちばしを使った捕食方法を、クイズの問題文と答えの文で示すことで

場面・状況意識・・・・お互いにクイズを出し合い、答えの文を聞き合う。

評価意識・・・・・・・・問題文と答えの文を、正しく呼応することができる。

教材文の、きつつき・おうむ・はちどりにしてもクイズブックの1ページとし、問題文や答えの文を正しく読み取ったことを生かして、自らのクイズ制作へとつなげていく。毎時間ページが増えていくことも、児童の意欲をより引き出していくと考える。

(2) 児童の実態

1年生の1学期の学習は、ひらがなを読み、書くことが、ほぼ全てできるようになった段階である。だが、文節でとらえることができている児童となると、少なくなる。これまでの学習で、「はなのみち」や「おむすびころりん」では、様子が伝わるように楽しく音読する学習を行ってきた。特に、「おむすびころりん」では、グループでの役割読みを取り入れ、繰り返し練習を行うことで、正しく読む力をつけてきた。しかし、事前に何度も教師が範読したり、教師の後に続いて一文ずつ読む練習を行ったりした後に、やっと読めるようになる児童も多く、よく見ると文を記憶して話しているため、読んではいない児童もいた。

今回、レディネステストとして、単文を書いた数枚のカードを読み、問題文と答えの文を見つける活動を行った。問題文は範読せず、自分の力で読み取るようにした。

問題文を、自分で読むことができる。	18人
意味を正しくとらえて、文章を読むことができる。	12人
問題文と答えの文を、正しくマッチングすることができる。	3人

その結果、短文でも自分の力で読むことができない児童が、16人いることが分かった。部分的には読めていても、最後まで読むことができない児童もいるが、全く文に向き合えない児童も6人いた。本単元では、3次に教材文から離れ、各自で短文を読むことでオリジナルのクイズを制作するが、読み取りが難しい児童がいることが考えられる。一緒に文章を音読したり、具体的にどのような内容なのか、画像や擬似物を活用したりして、内容を正しくとらえることができるようにしたい。教材文を読み取る中でも、視覚的資料や擬似物による操作などを通して、正しく内容をつかむことができるようにしたい。

(3) 指導観

【研究内容1】に関わって

単元を通して、ペア交流を繰り返し位置づける。本時では、問題文と答えの文を正しく読み取れているか、ペア交流を行い、一人が問題文、もう一人が答えの文を読むことで、呼応関係を明確にする。また、くちばしの特徴と、どのように花の蜜を食しているのかを、ペアで、はちどりのくちばしの特徴に近い擬似物を選び、実際に動かしてみることで、「ほそながい」「はなのなかに入れる」「はなのみつをすう」を正しく読み取れるようにしたい。

【研究内容2】に関わって

本時では、深めの発問として、「細長いくちばしで、はちどりは何をやるのだろう。」と投げかけることで、はちどりは、花の奥にある蜜を吸うために、くちばしがストローのような特徴をしていることに気づかせたい。擬似物を使って、どのようにくちばしを使っているのかを説明させることで、捕食のためにくちばしの形状が鳥ごとに異なっているのだということを感じさせるようにしていきたい。

【研究内容3】に関わって

1 単位時間のまとめとして、本時の学習でわかったことをペアで交流する時間を位置づける。「はちどりが、細長いくちばしをしていることがわかりました。」「わたしも、〇〇さんとおなじで、はちどりは、細長いくちばしを花の中に入れて、蜜を吸っていることがわかりました。」というように、交流を通して、お互いが学んだことを評価し合うとともに、改めて声に出して話すことで、読み取ったことをより確かなものにするようにしたい。

3 単元目標

- ◎説明の順序や内容を考えながら読み取ることができる。【読(1)イ】
- 文章の内容と、自分の経験や知識とを結び付けることができる。【読(1)オ】
- 語と語の関係に注意して、助詞「は」を正しく用いながら、文を書くことができる。【書(1)ウ】

4 単元指導計画(全8時間計画)

過程	時	主な学習活動(課題・着目する語句・深めの発問)	単元を貫く 課題/言語活動	評価規準【観点】
一次	1	<p>これからがくしゅうすることについて、しろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問答形式で受け答えをしたことを想起する。 ・鳥やくちばしについて、知っていることを出し合う。 ・学習課題を設定する。 	<p>文の順序や内容について、考えながら読もう。</p> <p>とりのくちばしについてよみ、くちばしクイズブックをつくらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くちばしについて書かれた文章を、興味を持って読もうとしている。 ・問答形式で受け答えを行った学習を想起し、クイズブックをつくるという活動に関心を持っている。【関・意・態】
	2	<p>「くちばし」にどんなことが かかっているか、よんでたしかめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1文目から、文章の内容を想像する。 ・全文範読し、何について書かれていたか出し合う。 ・クイズをつくるために、文章を読んでいくことを確かめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・鳥のくちばしに興味を持ち、知識や経験と結び付けながら、「くちばし」を読もうとしている。【関・意・態】
二次	3	<p>ひとつめの くちばしのもんだいを、くわしくよもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・49ページに書かれているのが、問題文であることをつかむ。 ・50ページに、答えが書かれていることをつかむ。 <p>着目:「これは、なんのくちばしでしょう。」「これは、きつつきのくちばしです。」</p> <p>深め: 答えの後に書かれている文は、何のためにあるのだろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「問題文」と「答え」という、説明の順序や内容を、正しくとらえて読んでいる。【読(1)イ】
	4	<p>ふたつめの くちばしのもんだいを、くわしくよもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつつきと同じような文章を見つける。 ・くちばしの特徴、問題文、答え、説明によって成り立っていることを読み取る。 ・説明は、最初に示した特徴に結びついていることに気づく。 <p>着目:「ふとくて、さきがまがったくちばし」「これは、なんのくちばしでしょう。」「これは、おうむのくちばしです。」</p> <p>深め: おうむのくちばしが太くて曲がっているのはどうしてだろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「問題文」と「答え」という、説明の順序や内容を、正しくとらえて読んでいる。 ・説明は、最初に述べられているくちばしの特徴と対応していることをとらえて読んでいる。【読(1)イ】
	5(本時)	<p>みつつめの くちばしのもんだいを、くわしくよもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文と答えの文を見つける。 ・はちどりのくちばしが、細長い理由を読み取る。 ・くちばしの特徴は、食べ物と関わりがあることを読み取る。 <p>着目:「ほそくて、ながくのびた」「これは、なんのくちばしでしょう。」「これは、はちどりのくちばしです。」</p> <p>ほそながい はなのなかにいれる みつをすう</p> <p>深め: 細長いくちばしで、はちどりはなにをやるのだろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「問題文」と「答え」という、説明の順序や内容を、正しくとらえて読んでいる。 ・くちばしの特徴は、鳥の食べ物と関係があることをとらえて読んでいる。【読(1)イ】
三次	6	<p>といと こたえの かきかたを まねして、かわせみの くちばしくいずをつくらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわせみの捕食方法についての短文を読み、かわせみが何をどのように食べているのか読み取る。 ・かわせみのくちばしの特徴を見つけ、説明の文と特徴の文を作る。 ・問題文と答えの文を書き、組み合わせて、かわせみくちばしクイズを作る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・呼応関係に注意し、「問題文」と「答え」という形式を理解して、書いている。【書(1)ウ】 ・自分の知識や経験と結び付けて、内容をとらえ、くちばしの特徴をどのように生かして捕食しているか、正しく読んでいる。【読(1)オ】
	7	<p>といと こたえのかきかたを まねして、じぶん がえらんだとりの くちばしくいずをつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真から興味をもった鳥を選び、捕食方法についての短文を読む。 ・くちばしの特徴を見つけ、説明の文と特徴の文を作る。 ・問題文と答えの文を書き、組み合わせてくちばしクイズを作る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・呼応関係に注意し、「問題文」と「答え」という形式を理解して、書いている。【書(1)ウ】 ・自分の知識や経験と結び付けて、内容をとらえ、くちばしの特徴をどのように生かして捕食しているか、正しく読んでいる。【読(1)オ】
	8	<p>くちばしくいず たいかいを ひらこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作った問題を出し合い、交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・問題を出し合うことに興味をもち、友達が作った問題を進んで読もうとしている。【関・意・態】

5 本時のねらい

はちどりのくちばしについて読み取る活動を通して、問題文と答えの文の呼応関係に気付き、くちばしの特徴は、鳥が捕食するものと関わっていることを読み取ることができる。

6 本時の展開 (5/8)

* 人権教育の観点

	学 習 活 動	○指導・支援 ◆見届けの視点
導 入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おうむのくちばしクイズでは、どこが問題文で、どこが答えの文だったか、ペアで読み合ってみよう。 ・「これは、～でしょう。」と書いてあるのが、問題文で、「これは、〇〇です。」と書いてあるのが、答えの文だったよ。 ・おうむのくちばしが太いのは、かたい種のからを割るためだったよ。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">みつつめの くちばしのもんだいを、くわしくよもう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・はちどりのくちばしについての文を音読する。 	<p>◆既習事項の定着状況 問題文と答えの文が呼応していることを確認する。(実態の見届け)</p> <p>○穴埋め式のワークシートを活用し、視写が困難な児童には、さらに最初の一文字を示すなどの支援を行う。</p> <p>○どの言葉から考えたのか、根拠を明確にして話すよう声をかける。</p> <p>○きつつきやおうむの文章を思い出して発言している児童を価値付ける。</p>
個 人 追 究 ／ 交 流 前 段	<p>3 一人読みをして、全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文はどこか、見つけて、ワークシートに記入しよう。 ・「これは、なんのくちばしでしょう。」と書いてあるから、53ページの文が問題文です。 ・答えの文はどこだろう。 ・「これは、はちどりのくちばしです。」と書いてあるところが、答えの文だよ。 ・問題文と答えの文にわかれて、ペアで音読してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・答えの文には、続きがあるね。 ・「はちどりは、ほそながいくちばしを、はなのなかにいれます。」と書いてあります。 ・「ほそながい」を別の言葉で、なんて書いてあったかな。 <p>4 深めの発問を提示して読みを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">はちどりは、細長いくちばしでなにをするのだろう。</div>	<p>◆学習状況の見届け 個人追究で把握した問題文と答えの文を、役割を分けて音読することで確認する。</p> <p>○細長い形状を、具体的にイメージさせるため、擬似物を用意する。</p> <p>○はちどりのくちばしと花を模した擬似物を使って、はちどりが蜜を吸う様子を動作化することで、はちどりのくちばしの特徴が捕食と関わっていることに気付けるようにする。</p> <p>○自分の経験をもとに話している児童を価値づける。</p> <p>*言葉を手がかりに、はちどりの生態を豊かに想像する力を育てる。(自己啓発力)</p>
交 流 後 段	<ul style="list-style-type: none"> ・細くて長いくちばしを、花の中に入れて、花の蜜をすいます。 ・タンポポみたいな花は、平たいからそんなに奥まで入れなくてもいいけど、グラジオラスの花などは、奥の方まで入れないと蜜が届かないから、細長いくちばしをしていると思う。 ・タンポポの蜜はなめたことがないけれど、サツキやサルビアは、花の根元の方に甘い蜜があってなめてみたことがあるよ。細長い花の方が、たくさん蜜があるのかな。 ・はちどりも、きつつきやおうむも、くちばしの形は食べるものと関係しているんだね。 	<p>◆定着状況の見届け くちばしの特徴は、どの鳥も食べるものと関わっていることをつかむ。</p>
ま と め る	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">はちどりは、はなのみつをすうために、細長いくちばしをしていることがわかりました。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交流し、お互いの発言に対して、反応し合う。 <p>7 次時の学習を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】 はちどりのくちばしについて読み取る活動を通して、問題文と答えの文の呼応関係に気付き、くちばしの特徴は、鳥が捕食するものと関わっていることを読み取っている。</p> </div>